

(2) 主要魚介類の入荷と価格の見通し

仙台市中央卸売市場
(電話) 232-8121

【概要】

鮮魚類は、メバチマグロの輸入物の入荷が減って、前年よりも高値が予想されます。貝類やタコ類なども水揚げ高の減少に伴う原料高に加え、燃料費・資材費等の経費の上昇により前年よりも値上げとなる見通しです。ナメタガレイ・タラ類は安定した入荷が見込まれ、前年並みの価格が予想されます。

冷凍品類は、輸入品の大幅な価格上昇を受け原魚ほか白子なども高値で推移する見込みです。タラバガニ・ズワイガニは主要産地からの入荷量が減少しているものの、高値による荷動きの鈍化状況から相場が下がり、前年の価格を下回る見込みとなっています。

塩干加工品類は、数の子・練り製品は円安による原料価格の高騰により、高値の見込みです。

【品目別】

マグロ	天然本マグロは北海道・青森中心の入荷となります。入荷量は減少し、高値で推移する見込みです。 養殖本マグロは生産数量が減少し、前年よりも3割ほど高値となる見通しです。 メバチマグロは前年よりも空輸物が減少し、宮城・千葉・和歌山・沖縄中心の入荷となる見込みで、前年より高値が予想されます。 冷凍マグロは為替・原油高・漁獲不漁の影響により、全般的に原料価格が高騰しています。今後の搬入数量増加も期待できず、原料不足のまま年末年始を迎える見通しです。
養殖ハマチ	在池量が少なく、高値で推移する見込みです。九州(鹿児島・宮崎・大分・長崎)と四国(高知・香川)から4～5kg前後の活物が入荷予定となっています。
養殖カキ	全国的に身入りが悪く生育遅れが目立ちます。今後は水温が下がり生育が進むと予想されますが、スタートが全体的に遅れているため水揚げ数量はまとまらない見込みとなっています。 また、製品製造における経費が大幅に上昇していることから、年末にかけてさらなる高値が予想されます。 むき身は宮城・岩手・広島産、殻付は宮城・岩手産中心の入荷となる見込みです。
タコ	北海道産水タコは、帯状低気圧の時化の影響により水揚げ最盛期の7～8月が不漁となったため、前年より3割ほど高値で推移しています。 輸入物のアフリカ産真ダコについては、ヨーロッパでの需要増加と国産タコの不漁により、こちらも高値安定の見込みです。
ナメタガレイ	11月後半から12月前半は根室・釧路の道東地区、後半にかけては日高・道南地区からの入荷が増加する見込みです。近年の水揚げ量がまとまっていることから、安定した入荷が予想されます。
タラ	国内産は北海道・三陸中心の水揚げで安定した入荷が見込まれ、前年並みで推移する見込みです。 アメリカ産は海外需要が強くなり国内搬入は減少し、高値が予想されています。
カニ・エビ	タラバガニ・ズワイガニはともに主要産地からの輸入量が減少しているものの、高値による荷動きの鈍化状況から前年よりも安値で推移する見込みです。 甘エビ・ボタンエビについては、円安の影響により高値で推移しています。
筋子	味付け筋子は世界的なイクラ需要と鱒の不漁により前年よりも高値で推移しています。 塩筋子はアラスカ紅鮭の豊漁により順調な入荷で前年よりも安値で推移しています。

裏面につづく

数の子	円安による原料価格の高騰で、高値で推移する見込みです。 中国のロックダウンや世界的コンテナ不足の影響で搬入が遅れる可能性があります。
練り製品	原材料費・製造経費の値上がりにより、前年よりも高値で推移しています。